

井野口病院 2025プラン

【2025（令和7）年8月改定概要】

【1. 構想区域の現状と課題】

- 広島中央医療圏の人口は2040年に向けて徐々に減少していくが、65歳以上の高齢者は徐々に増加していく。
- 東広島市の医療需要は増加傾向にあり、2020年比で2040年は11ポイント増加すると予測されている。介護需要は32ポイント増加することが予測されている。
- 病床機能報告と必要病床推計との過不足については、急性期と回復期が若干不足、高度急性期と慢性期は過剰となっており、全体で260床過剰となっている。
- 近接する広島医療圏、呉医療圏においては回復期機能が不足している。
- 人口10万人あたりの回復期リハビリテーション病床は、広島県の中で広島中央医療圏が最も少ない。

【2. 当院の今後の方針】

① 地域において今後担うべき役割

- 圏域における救急医療体制の維持に向け、二次救急病院としての役割を継続する。救急車の受け入れとともに、地域の開業医や介護施設を後方支援し入院の必要な患者を受け入れる。
- 東広島医療センター等の高度急性期医療機関と緊密に連携し、急性期を脱した患者の転院を受け入れる。在宅復帰に繋げ、地域完結型の医療体制構築に貢献する。
- 急性期から回復期、維持期までの切れ目のないリハビリテーションを提供するとともに、医療・福祉に関する様々な問題に対して専門的な視点で患者支援を行う。地域リハビリテーション広域支援センターとして、圏域内のサポートセンターと連携し、高齢者の介護予防と生活の質の向上及び障害のある人々の自立や社会参加を支援していく。
- 増加する医療需要・介護需要に対応するため在宅医療の領域を強化する。地域医療を包括的に支援し、安心して暮らせる共生社会の実現に貢献していく。

② 今後持つべき病床機能

- 限られた医療資源を有効活用するために、地域内での役割分担と連携促進が求められる。早期の在宅復帰を推進する役割を担うため回復期機能の拡充を検討する。近接する医療圏（広島・呉）においても回復期機能が不足していることから、より広域での医療提供体制の整備にも繋がるものと考えられる。
- 不足する機能については、近隣医療機関や介護施設と緊密に連携し、安心して住民が生活できる地域づくりを進める。

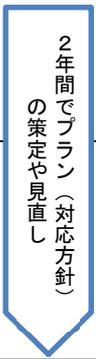
【3. 具体的な計画】

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (2024年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	-	→	-
急性期	49床		49床
回復期	97床 (回りハ49床、地ケア48床)		139床 (回りハ91床、地ケア48床)
慢性期	42床		0床
(合計)	188床		188床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2022年度	○自施設における合意形成に向けた協議	○自施設の今後の病床のあり方を決定（本プラン策定）	 
2023年度	○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討 ○法人の次期中長期経営計画・単年度事業計画の策定	○地域医療構想調整会議において自施設のプランに関する合意を得る	
2024年度			 
2025年度～	○自施設における合意形成に向けた協議（プラン改定） ○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討 ○病床機能の転換 慢性期→回復期	○自施設の今後の病床のあり方を決定（本プラン策定） ○地域医療構想調整会議において自施設のプランに関する合意を得る ○機能転換の完了	